

## 世界平和を考える

## インターネット情報を活用した課題解決学習の工夫

浜松市立富塚中学校 中村雅之

## 1 はじめに

この章のねらいは、世界平和の実現と人類福祉の増大のためには、すべての国家の主権が相互に尊重され、お互いに理解、協力していくことがたいせつであることを認識させる。そして、戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度をそだてることである。

国際社会で起こっているさまざまなきごとは、毎日のように、テレビニュースで入ってくるため、生徒たちは、知識としてはさまざまなきごとを知っている。しかし、それはテレビの映像であり、自分たちの生活とは関係ない、遠い外国のできごととして受け止めているのも事実である。

このため、この単元では、教科書の資料に加えて、現在の国際情勢について考えるため、最新の情報を手に入れやすいインターネットなどを活用して、私たちが住む日本も国際社会の一員であり、国際社会との関係なくしては成り立たないこと、日本にも領土問題があること、世界は依然核兵器の脅威にさらされていること、内戦や南北問題に苦しむ国々があること、などに気づき、世界平和のために、日本による国連活動への経済的・人的貢献、核兵器廃絶への取り組み、ODAやNGOによる経済的・人的支援活動が必要なことや、生徒たちにも、ユニセフなどの募金活動を通して世界平和に貢献できることを考えさせることにした。

## 2 授業計画

## (1) 国家と領土問題

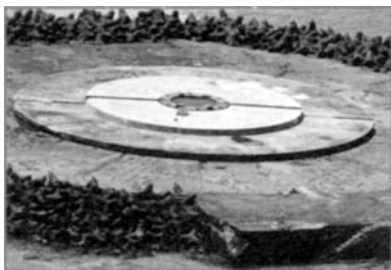


図1

帝国書院『中学生の公民（最新版）』p.158

はじめに、教科書p.158の「沖の鳥島」の写真を活用し、直径約2mの岩を守るために300億円かけて補強工事をした理由を考えさせた。

この答えと解説として、p.159④図を活用して国家の領域について確認し、「国家とはなにか」という課題をもたせた。



図2

帝国書院『中学生の公民（最新版）』p.158

まず、教科書を活用し、国家成立の三つの条件を確認する。次に、p.158③オリンピックの表彰式の写真を見て、なぜ多くの人が起立しているのか考えさせることで、「国家をお互いに尊重する態度」のたいせつさに気づかせた（座っている人に対してどう思うかも考えた）。ここで、「主権平等」「領土不可侵」「内政不干渉」を各国が認め合うことで国際関係が成り立っていることを押さえた。その後p.159⑤湾岸戦争の写真から、これが破られたとき戦争が起こることに気づかせた。

最後に日本にも「領土問題」があることをp.159コラムから気づかせ、日本・世界平和について考え次の授業につなげた。

## (2) 世界平和をめざして 1

この時間は、コンピュータ室を活用した。はじめに、教師用コンピュータとプロジェクターで「ハワイ」「スイス」などの観光地の写真を写し、海外旅行の話を導入に使った。

次に、「外務省の海外安全ホームページ」を検索し、各地域別の「渡航情報（危険情報）」を開

かせた。生徒たちは、「渡航の延期」や「退避勧告」の出ている国が多いことに驚いた。ここから、本時の「なぜ渡航延期・退避勧告が出ているのだろう」という課題をつくり、調査活動に入った。調査は、「渡航延期・退避勧告」の出ている国の名前をクリックすると下の図のように「渡航情報」「安全対策データ」「テロ概要」が出てくるため、生徒が興味をもった国について調査させレポートにまとめさせた（この際、調査してわかったことに対する自分の意見を最後につけさせた）。レポートを提出させ、次時の導入に活用した。



### (3) 世界平和をめざして 2

前時に調査したレポートを2名の生徒に発表させ、「なぜ、内戦やテロ、戦争はなくなり、人は憎み合い、殺し合うのだろうか」という課題をつかった。

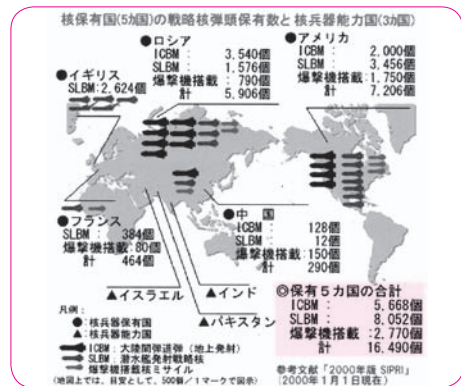
前回つくったレポートを配布し、社会科の四人班の中でお互いのレポートを確認しあいながら、課題を解決する話し合いを行った。各班にTPシートとペンを配布し、話し合いの結果をまとめさせ、教室のOHPを活用して発表させた。各班の発表を基に、教科書p.161の内容を活用し、まとめた。この際生徒発表から出てきた「貧しさ」から、「南北問題」についてもふれた。また、教科書p.161③の学校内につくられた壁の写真を活用し、もし自分の通っている学校で起こったらと考えさせた。

### (4) 世界平和をめざして 3 (国連の取り組み)

この時間は、コンピュータ室を活用した。

まず、プロジェクターで「5か国で16,490」という数字を写し、なにについてか自由に発表させた。解説として、次の「核兵器の現状」を写し、

核兵器の保有国と保有数であることについて気づかせた。そして、教科書p.160を活用して、前時に学習した、内戦、テロ、戦争のなくなる世界で、核兵器の脅威も続いていることを認識させ、「世界平和をめざす取り組みを考えよう」という課題をつかった(教科書p.163⑤難民数の変化を活用し、内戦、戦争による難民増加の問題にもふれた)。



課題解決に向けて、まず、歴史分野の学習を基に、世界平和のために活動している組織「国際連合の活動について調査し自分の所属先を探そう」という本時の課題をつくり調査活動を行った。調査活動は、ワークシートの課題をインターネットで調査して、自分の行動に結びつけてまとめる活動を行った。

コンピュータで、「国際連合」を検索し、「国際連合のホームページ」を開く。「国連の基礎知識」の中から「成立と目的」「機構(六つの主要機関それぞれをクリックすると内容が出てくる)」を開き、ワークシートにまとめる。次に、「国際連合」で検索した「サイトリスト」中の各専門機関のサイトを活用して、自分がその職員の一員として、働いた場合、果たそうとする夢についてワークシートにまとめ発表させた。

### (5) 世界平和をめざして 4 (国連の課題)

世界地図で「コンゴ」「ボスニア・ヘルツェゴヴィナ」「コソボ」「東ティモール」の場所を確認し、共通するのはなにに質問し、国連の平和維持活動に着目させ、本時の導入とした。

教科書p.163を基に、国連の平和維持活動について説明した後、教科書p.164①の同じPKOの写真を見て、なぜこんなによろすが違うのか考えさせた。ここから、「国際平和のために取り組んで



図5  
帝国書院『中学生の公民（最新版）』p.164

いる国連の課題について調べよう」という課題をつくって取り組んだ。

教科書p.164を参考に、三つの国連の課題を調べさせ、説明を加えた（ここで、拒否権についてもふれた）。

次に、教科書p.165④のグラフから気づくことを発表させ、予算と人の確保の問題について理解を深めた。

最後に、私たちにできることとして、ユニセフのポスターと教科書p.165の「考えてみよう」を使って話をし、ノートに自分の考えをまとめ発表させた。



図6  
帝国書院『中学生の公民（最新版）』p.165

(6) 世界平和をめざして 5 (日本の役割)  
この時間は、コンピュータ室を活用した。

教科書p.166~167②⑥の写真をスクリーンに映してなにをしているところか質問し、日本人が参加しているNGOについて興味をもたせ、「世界平和のために日本人や日本が行っていることを調べる」ことを行った。NGOについて説明をした後、教科書写真p.167「青年海外協力隊」の体験談から「青年海外協力隊」をコンピュータ（インターネット）で検索し「国別要請情報」から、興

味ある国からの要請について聞き、どのような活動をしているのか調べさせた。

次に、「ODAホームページ」を検索させ、日本が行っている海外援助活動について、興味ある事業項目を開き、援助内容を調べさせた。

最後に、私が「カンボジア」「ラオス」に訪問して収録した、人々の生活の様子と日本人ボランティアの活躍の様子をビデオで見せた。そして、「世界平和のために、私たちや日本がどのような貢献をすることができるのか」ワークシートに考えをまとめさせ、意見交換を行った。



図7  
帝国書院『中学生の公民（最新版）』p.167

### 3 おわりに

今回は、①現在の国際情勢について考えたり、最新の情報を手に入れやすい、②技術科や総合的な学習の時間に培われた技能を活用して、必要な情報を自分で選んで使っていき力を養う、という二つの目的で、ほかの授業でコンピュータ室の利用の少なくなるこの時期を利用して、インターネットを活用した授業を実践してみた。生徒たちは、コンピュータ活用に対する興味が高く、操作に慣れており意欲的に調査活動に取り組んだ。

また、「世界平和を考える」学習を組むうえで、教科書に掲載されている写真や資料は、具体的でわかりやすく、生徒たちの興味を高めたり、理解を助けたりするために多く活用させていただいた。